

平成28年度 総務常任委員会管内視察の概要

■視察日 平成28年10月31日（月）～11月1日（火） 1泊2日

■視察者 総務常任委員（5名）
高木健次（委員長）、緒方勇二（副委員長）、小杉 直
氷室雄一郎、河津修司
地元議員（1名）
池田和貴

■視察先 ①熊本空港ビルディング株式会社 ②天草エアライン株式会社
③天草市河浦町崎津集落

■視察趣旨 下記により、今後の委員会審議の参考とするため視察を実施した。

- ① 熊本空港ビルディング株が運営する阿蘇くまもと空港ターミナルビルは、熊本地震により建物や設備に甚大な被害を受け、空港業務を継続しながら復旧工事を行っているが、その被災状況及び復旧状況について確認するとともに、創造的復興に向けた取組みについて経営幹部と意見交換を行う。
- ② 天草エアラインは、平成12年の運行開始以来、天草の地域振興を支える基盤となっている。今年度は機体も更新され、更に発展が期待されたところ、震災の影響を受け、一時的な旅客数の落ち込みがっており、同社の経営の現状と課題について意見交換を行う。
- ③ 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として、平成30年夏の世界遺産登録を目指している天草市崎津集落について、登録に向けた取組みを確認する。

■視察の概要

①熊本空港ビルディング株式会社

空港ビルは昭和46年の開業から数次にわたる増改築工事が行われてきました。必要な耐震補強がなされていたため、構造的な損傷はなかったものの、天井等の非構造部やつなぎ目部分を中心に被害が大きかったとのことでした。

今後、空の玄関口にふさわしく、また防災拠点としての機能向上の観点から、創造的復興に向けた空港施設のあり方について、経営幹部との意見交換を行いました。



②天草エアライン株式会社

今年2月に、これまでの39人乗りから、48人乗りへ機体を更新し、搭乗者の増加が期待されましたが、熊本地震の影響で一時的な旅客数の落ち込みがあり、ようやく回復してきたとのことでした。

また、機体が大型化したことで、今後、公租公課や整備費等の増加が見込まれ、これまで以上の経営努力が必要とのことでした。

進入経路変更による就航率向上や搭乗者の確保に向けた需要創出策について、経営幹部との意見交換を行いました。



③天草市河浦町崎津集落

集落としての景観を守るため、景観条例で建物の高さ制限と色彩規制を行っているとのことでした。

また、住民の生活や信仰が観光客によって乱されることのないよう、集落外に駐車場やトイレ等を整備し、“歩く観光”を目指しており、実際に集落内を歩き、観光客の受入れ体制が整備されつつあることを確認しました。

今後は、世界遺産登録を契機とした地域活性化に取り組んでいくとの説明がありました。

